

令和6年度 部局経営目標

年度	令和6年度	作成日	令和6年4月1日
部局名	湯原振興局	部局長名	河島 賢治
(1) 部局の役割・使命 (ミッション)			
1 災害に強いまちづくり【No.11：住み続けられるまちづくりを】 市民の安心安全な暮らしを守るため関係機関・団体と連携を密にし、地域防災意識の向上と地域連携を図り、地域防災力の強化を図ります。 2 生涯を通じた健康づくりの推進【No.3：すべての人に健康と福祉を】 持続可能な地域社会を実現するための基本となる健康づくりに、各団体等との連携を図りながら取り組みます。 3 地域の強みを活かした地域振興【No.11：住み続けられるまちづくりを】 歴史、文化、風土、景観など地域の強みを活かした市民主体の振興事業や特産品を活用した商品開発などの地域内経済循環を推進し、豊かで自立した農山村の実現及び来訪者・関係人口の増加を目指します。 4 移住・定住の促進【No.11：住み続けられるまちづくりを】 移住者や関係人口獲得など、持続可能なまちづくりを目指す地域団体等の活動を支援します。 5 生み育てやすい環境づくり【No.3：すべての人に健康と福祉を】 安心して子育てができる環境を確保するためライフスタイルにあわせた支援をおこないます。 6 地域の文化力の向上【No.4：質の高い教育をみんなに】 自然・民俗の歴史を次世代に伝えるために蓄積するとともに、新たな文化及び芸術の創造に取り組み、心豊かな地域を目指します。 7 スポーツや文化を楽しめる環境づくりと交流促進及び地域振興【No.4：質の高い教育をみんなに】 誰もが気軽にスポーツや芸術・文化に触れる機会を提供し、自主的な市民の参加と関心を高めます。 8 行政財産の有効活用【No.12：つくる責任つかう責任】 市民の共有財産である「行政財産・公共施設」について、一層の有効活用のため、地元の意向を把握しながら、管理運営形態や複合的な利用手法を検討します。また、地元協議やHP等での情報発信も積極的に実施します。			
(2) 部局の重点施策			
②自分らしく暮らせる「共生の地域社会まにわ」の実現 ③市民とともにつくる持続可能な「地域づくり」 ④未来に向けた「回る経済」の推進と脱炭素への挑戦	(1) 地域の拠点を活用した協働推進 (1) 住民による地域運営と交流人口を増やす取組を支援 (2) 地域が実施する地域の資源を活用した地域づくりを支援 (1) 湯原温泉と地域資源を活用した取組との連携を推進		
(3) 事業成果目標			指標名及び目標値
●人口減少抑制対策 「生むこと・育てること」を支援 (再掲) 湯原ふれあいセンターやつどいの広場を活用し、子育て世代が交流できる場とするとともに、子育て支援についての研修会等を開催します。 ①子育て世代が集うイベントを開催 (子育て関係、図書館関係等) ②親子クラブと地域ボランティアで子育て研修会を開催			指標: ①子育て世代の参加者数 ②イベント等回数 目標値: ①2,000人 ②1回

●森の芸術祭関連事業 湯原観光協会、湯原町旅館協同組合、湯原文化協会等の各種団体と連携し、湯原地域の特長を活かした芸術イベント開催など市内外からの誘客・交流促進を図ります。	指標：観光客入込数（7月～11月の実施期間中とする） 目標値:11万3千人
●生ごみ資源化対策関連事業 生ごみ資源化推進事業 生ごみの収集開始に合わせて、資源化について地域住民に対してPRします。旅館組合等と連携して、事業系一般廃棄物の分別推進に取り組みます。特に生ごみの分別収集を推進します。 ①旅館組合が一体となって分別に取り組むことを目指して協議を進めます。	指標:旅館組合の生ごみ分別収集 目標値:全組合員合意 1 件
1-1 自主防災組織の強化 ①自主防災組織や消防団と連携し、防災士、真庭消防分署等の協力を得て総合防災訓練を実施し、地域防災力、自主防災組織力の強化を図ります。 ②自主防災組織代表者を集めた会議、講演会等を開催し自主防災組織の育成強化、防災意識の底上げに取り組みます。	指標:①総合防災訓練②防災代表者会議 目標値:① 1 回 ② 2 回 令和5年度実績値：ヒアリング実施数27/70自治会
2-1 健康づくりのための実践活動支援 ①糖尿病予防や健康寿命の延伸を目的として、定期的に運動をする機会（プログラムと場所）を提供し、併せて地域が主体的、継続的に取り組めるようフォローアップを行い、参加者の増加に努めます。 ・第6期まんぼジム（ウォーキングや筋力アップ体操） ・貯筋体操 ・ウォーキング ②フレイル予防や筋力アップを図り、健康寿命の延伸を目指します。 ・ユニバーサルスポーツ教室（ボッチャ、モルックなど） ・地域で開催する健康体操	指標：参加人数 目標値: 710人 令和5年度実績値:参加者数710人(集いの場働きかけ1団体)
3-1 地域振興事業（社地区） 社地域振興協議会が実施する社の歴史資源を活用した地域づくりを支援します。 ①社の歴史資源を維持し活かすための取組 ・式内八社（当面は大御堂）の維持補修のための勉強会を開催 ②「つなぐ棚田遺産」に認定された景観及び歴史や文化をPRするための交流イベントを開催 （田植え祭、収穫祭、夏祭り、秋祭りの神輿担ぎ、歴史体験交流、竹灯籠イベントなど） ③グリーンスローモビリティを活用した社の歴史ガイドの実施	指標:①勉強会開催数 ②イベント開催数 ③歴史ガイド実施数 目標値:①2回 ②7回 ③15回 令和5年度実績:①3回（別にシンポジウム1回） ②7回 ③17回

4-1地域振興事業（二川地区） 二川みらいづくりセンターを拠点とした、住民による地域自治と交流イベントなどによる活力を維持発展させます。住民主体で下記のことを実施することで二川地域内のつながりを持続させるとともに、交流人口増を図ります。 ①住民組織による企画イベントにより交流人口を増やす取組を進める ②学校らしさを生かした学びのコンテンツを盛り込んだワークショップや子どもの居場所づくりを実施 ③地域住民の交流や生活・健康維持のための取組を広げ、施設活用を促進させる。	指標:①交流人口増の取組回数②子どもの居場所づくり実施回数③施設利用者数 目標値:①2回②6回③6,200人 指標変更 R5年度実績：施設利用者数 6,076人
5-1 「生むこと・育てること」を支援 湯原ふれあいセンターやつどいの広場を活用し、子育て世代が交流できる場とするともに、子育て支援についての研修会等を開催します。 ①子育て世代が集うイベントを開催（子育て関係、図書館関係等）2,000人 ②親子クラブと地域ボランティアで子育て研修会を開催 1回	指標:子育て世代の参加者数 目標値:2,000人 （令和5年度実績値: ①子育て世代の参加者数 2,018人 ②研修会1回
6-1 図書館の利活用促進 湯原図書館が地域に愛され、市民や観光客が気軽に立ち寄ることができる場になるよう、環境づくり・雰囲気づくりを行い、利用者ひとりひとりのニーズに対応したサービスを提供できるように取り組みます。また、図書館は情報の集積拠点というだけでなく、人が集い語らう・交流の場として、利用者増を目指します。 ①県立図書館への本の一括借受 2回 ②公民館と連携した講座・イベントの開催 3回 ③こどもを対象とした催し物開催(工作・読み聞かせ含む) 6回	指標:①図書館利用人数(来館者数) ②図書貸出し冊数 目標値:①5500人 ②9000冊 令和5年度実績値：イベント参加者136人
7-1 湯原クライミングセンターの利用促進 スポーツクライミングを「湯原らしいスポーツ」と捉え、裾野の拡大やスポーツジャンルとしての普及を図り、湯原クライミングセンターの利用促進と活性化につなげていきます。そのために、真庭市スポーツ少年団湯原支部クライミング部との連携による、未経験者や初心者を対象とする体験会の実施や、市内学校による校外活動での積極的利活用を促していきます。また、岡山県山岳・スポーツクライミング連盟等と連携協力し、競技者を対象にした技術講習会やローカルの小規模競技会等の誘致・実施をしていきます。	指標:①体験会・講習会等の開催数 ②施設利用者数 目標値:①5回 ②4,500人 （令和5年度実績値：①2回 ②4,262人）

8-1 管内公共施設の有効活用及び効率的運営の推進 湯原ふれあいセンターを、湯原地区のみでなく真庭市民に愛される公共施設として活用します。 はんざきセンター・RVパーク・ひまわり館は、自然や動物と親しむ場、アウトドアやキャンプなどが楽しめる施設としてPRしていきます。 ①湯原ふれあいセンターでは、子どもから大人まで、さまざまな世代が参加できるイベントを開催 ②ふれあいセンター、はんざきセンター、はんざきねぶた倉庫、湯っ足り広場を一体とし、さらには湯原温泉街への回遊を促す取組をする。 ③湯原観光協会、湯原町旅館組合と連携し、マルシェ等のイベントを開催	指標:湯原ふれあいセンター 延べ利用者数(※図書館利用者は除き、市民センターとしての利用者数) 目標値:5,500人 令和5年度実績値:5,472人
8-2 温泉施設の有効活用 湯本温泉館・下湯原温泉（ひまわり館）・足温泉館の連携を図り、日帰り入浴から湯原地区の観光誘客（入浴・お土産・食事）につなげるとともに、関係団体と協力して温泉事業改善に向けた取組を進めます。 ①日帰り温泉3施設の統一した広報 ②湯本温泉館テレワーク施設（Uffice）の広報 ③下湯原温泉の指定管理者との連携 ・年間のイベントスケジュールなどの共有・調整 ④温泉施設の課題や運営方針について ・湯原旅館組合などの受湯者との話し合い ・温泉施設管理の将来に向けた検討 ⑤市が運営する3施設と、湯原温泉宿泊施設との連携 ・温泉旅館宿泊前後の日帰り温泉施設への誘導 ⑥入浴料の適正化の検討 ⑦配湯施設老朽化対策の検討	指標:単年度収益的収支比率（収益÷費用） 目標値:①湯本温泉館 78% ②足温泉館 95% （令和5年度実績値:①湯本温泉館 72% ②足温泉館 95% ）